

MACF 礼拝説教要旨

2020.07.26

ローマの信徒への手紙 5章6節—9節

5:6 実にキリストは、わたしたちがまだ「弱かった」ころ、定められた時に、「不信心な者」のために死んでくださった。

5:7 正しい人のために死ぬ者はほとんどいません。善い人のために命を惜しまない者ならいるかもしれません。

5:8 しかし、わたしたちがまだ「罪人」であったとき、キリストがわたしたちのために死んでくださったことにより、神はわたしたちに対する愛を示されました。

5:9 それで今や、わたしたちはキリストの血によって義とされたのですから、キリストによって神の怒りから救われるのには、なおさらのことです。

++++

パウロはこの箇所でキリストを知る前の私たちの状況を表現しています。

神様の目から見て、わたしたちのありのままの姿はどう映っていたのかということがわかります。にもかかわらず、神は深い愛を示し、赦し、希望を与えてくださったからこそ「福音」なのですが、結構、強烈な言葉が使用されています。

1) 弱かったころ

ここにある「弱かった」という語源は Helpless と訳されている「無能力」と言う意味です。

自分で自分の心の整理ができず、自分の心の内側を清める力をもたず、神との関係を修復するすべを全く持っていない無能力な私たちのためにキリストがきてくださっただとパウロは語るのです。

2) 不信心なもののために

続いて出てくる「不信心なもの」という表現は英語では UNGODLY という言葉ですが、神様の性質の真逆なところに位置する心で生きて

いるという存在。つまり、神様嫌いとしか考えられないような反抗心とか競争心とか、神様全体について否定的な考えをもって生きていたのが私たちの姿だとパウロはいいます。しかし、そういう私たちのために、神はイエス様をお遣わしになり、十字架で死なせたというのです。

3) 罪人であったとき

罪という言葉は、犯罪とすぐに結びついて考えられますが、聖書の中での罪というのは、それよりもむしろ、神の心から離れている状況のことを指しています。

何をしても、結局、神の心の意図することとの外れな生き方になってしまふのです。自分で直すこと、修正することができないのです。

3) 神の怒りの下に生きていた

さらに、私たちは神の怒りをうける存在であったとパウロは語ります。

神が愛なるお方でなかったら、私たちには厳格な処罰をともなう裁きしか受け取るものはありませんでした。しかし、それらの怒りと処罰をイエス様が十字架の上ですべて担ってくださったのだとパウロは語るのです。

イエス様は、私たちのために命をかけてくださいました。無能力、不信心、罪人、であった私たちに神は愛を示されました。

これは重大な出来事です。

「キリストの死」

実は、キリストは私たちを含む、これらの人間の手によって殺されました。実に理不尽な死を受け入れて十字架で死なれました。そこには、人生におけるどんな理不尽も受け止め、死ぬことさえも厭わない愛の強さが見えてきます。

同時に、その死は私たちの罪を赦すための「贖いの死」でもありました。私たちと神との関係を修復するための神様がお作りくださった道でした。神様だけが犠牲を払うような道でした。そこに神の愛を見るのです。

では、その十字架を信頼したら、私たちの無能力感や不信心な思いが即座に消えるかというと、そうでもありません。それで自動的に私たちの心と性質や生活が正常化するか、というと、しないのです。

救いは届いているのに、まだ理不尽な生き方を継続しているのです。

しかし、神の愛と赦しは届いているので、何かが大きく変化していきます。
それについてはまた来週。

どうぞ、悲観的にならず、ご自身の心の養いの時と考えて、みことばを楽しみ、それをどう生きれば良いのか考えながら、1日1日を大切にお過ごしいただければ嬉しいです。

祝福を心からお祈りしています。

MACFへの礼拝献金は

金融機関 三菱 UFJ 銀行 京橋支店

口座番号 普通 2833066

口座名義 ミッション・エイド・クリスチャン・フェローシップ 関根一夫

にお送りいただけすると諸費用のために助かります。ご無理のないように、でも、促されるままにご活用ください。

+++++

「MACF の礼拝再開について」

「2020年07月26日現在の牧師の心情」
相変わらずコロナの感染者数が増大する中
お茶の水クリスチャンセンター8F での礼拝開催
は難しいなと感じています。
人によって理解は違い、深刻の度合いも違いますが、集会の責任者としては現状のまま、OCC8F での礼拝再開についてはまだまだ危険度が高いと感じています。
おそらく都内での感染者数が平均で 20 人以下の日が一ヶ月ほど続き、それが落ち着くようになったら集会の再開の目処がみえてくるのかもしれません。私の気持ちとしては、そんな感じです。

日本の隠れキリストの人たちが 250 年以上も迫害を恐れ、隠れながら信仰を保つことを考えると、今、メッセージは自由に読んだり聞いたりできる状況が開かれていることは大きな祝福だと思います。

関根一夫